様式1

令和4年度　山梨県立都留学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	総合的な人間力を高め、次代の地域と日本を担うグローカル人材を育成する。 個性と能力を最大限に伸長させ、第一希望の進路実現を図る。

山梨県立都留高等学校校長　廣瀬　浩次

本年度の重点目標	
	より質の高い文武両道を求め、調和のとれた生徒の育成に努める。
	自他への思いやりや優しさを持つと同時に、困難を乗り越える強い意志と勇気を持った生徒の育成に努める。
	自ら学び、判断し、行動する姿勢を求め、次代の社会を担い、自立して生きていく力を培う。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（　1月25日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	より質の高い文武両道を求め、調和のとれた生徒の育成に努める。	「主体的・対話的で深い学び」、質の高い授業を通して、生徒一人ひとりの力、可能性を引き出す学びの実現を目指す。	授業アンケートの実施	○教員は「一人ひとりを大切にした指導」「工夫した授業」を実践しているという自己評価が9割弱、生徒の肯定的評価も8割以上となり、昨年と比べ教員と生徒の差はかなり縮まっていて、生徒の肯定的評価も上昇した。 ○「部活動は活発である」と感じている教員・生徒が9割前後と多い一方、「質の高い文武両道が実現できている」と感じている生徒は6割後半に留まった。また、生徒会活動が自主性を顕現する場と評価している生徒が8割いた。 ○「少人数教育が進路実現の目標達成に効果的である」と教員生徒とも7割以上の高評価を得た。また、進路別に対応した個別の学習指導を取り入れ、生徒一人ひとりに合わせた学習指導をしてきた。	B	○BYOD端末や観点別評価の導入を前向きにとらえ、先生方が工夫した授業を展開している。教員間で情報共有し、連携して授業改善に取り組むことで、生徒の主体的な学習につなげるようにする。 ○コロナ後に向けて、戻すべき部分、変えていく部分を明確にする必要がある。そのうえで、今後もより質の高い文武両道を実現するために、部活動ガイドラインを遵守しながら取り組めるよう工夫をしていく。 ○単位制の特徴である少人数教育と多種多様な選択科目の設定は高評価を得ているが、教員定数の削減の中で、生徒が第一希望の進路実現を目指せるよう、より効果的な教育課程の編成を模索していく。
		部活動や生徒会活動を活性化することで、県内はもとより関東や全国で活躍できるような「レベルの高い体育・文化活動」を目指す。また、適切な休養日の設定に努める。	学校評価アンケートの分析と検証			
		単位制の特色を生かした幅広い選択科目の設定と少人数授業を行うことで、生徒一人ひとりの個性に合った、「深く広く学ぶ」ことのできる学習体制を構築する。	学校評価アンケートの分析と検証			
2	自他への思いやりや優しさを持つと同時に、困難を乗り越える強い意志と勇気を持った生徒の育成に努める。	学校外と連携した教育活動を通して、豊かな人間性と社会性・国際性を身に付けさせる。	学校評価アンケートの分析と検証	○「出前講座・大学訪問等が進路意識の向上に役立っている」について教員生徒とも8割を超える高評価を得た。生徒が主体的に取り組み学習の成果を発展させる力を身につけさせたい。 ○コロナ禍の影響もあり、「悩み等が相談できる」生徒の割合が6割台であったが、受け入れ側の教員は9割を超えた。また「生徒・保護者・学校の相互理解が図られている」はともに8割以上の高評価を得た。学力・家庭環境等多様な生徒が在籍し、生徒の質的変容が認められる中で、教員の適切な情報共有が図られた。	B	○コロナ後を見据え、小中高が連携した活動や校外での体験的な学習を積極的に取り入れ、多様な社会に触れる機会を創出する。 ○教育相談研修の継続とカウンセリングマインドの醸成を図りつつ、専門家などの外部機関とをつなげることで問題解決につなげられるようにする。 ○不安を抱えている生徒からの相談を待つのでなく、丁寧に観察し、教員から声を掛け、配慮をしていくことで、生徒に寄り添った対応をしていく。
		家庭や外部機関との連絡を密にし、校内における生徒情報の共有と相談体制の充実を図る。	学校評価アンケートの分析と検証			
3	自ら学び、判断し、行動する姿勢を求め、次代の社会を担い、自立して生きていく力を培う。	学校生活全体を通して挨拶の励行、時間・規則の遵守、環境美化の推進を行うことで、社会人としての基本的生活習慣の確立と規範意識の徹底を図る。	学校評価アンケートの分析と検証	○「生徒の服装やマナーの遵守」「環境美化の推進」について、9割前後の高評価を得ており、学校生活の様々な場面で生活習慣の確立と規範意識の徹底への成果が現れている。 ○総合的な学習の時間を活用した「都留高探究プロジェクト（つる探）」の取組は、インターネットや文献による「調べ学習」が主体になったので、「主体的で深い学び」という点で生徒の評価が7割にとどまった。一方、キャリア教育に係る講演会等は、事前アンケートを取り、講演内容に反映させたため、高評価を得た。 ○「効果的な進路行事の実施、適切な進路情報の提供」、「三者懇談等の進路相談が適切に行われている」についての評価は教員、生徒とも9割以上の高評価を得た。課外・学習会への目的を明確に伝えるよう心掛けてきたが、教員の評価ほど生徒への評価には反映されていない。	A	○教員間で生徒指導の統一性が図られるよう、問題行動や生徒理解に対する情報交換や話し合いを適切に実施し、より一層の情報共有を図っていく。 ○「つる探」による探究活動に生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。 ○キャリア教育に係る諸行事に対し、事前事後の学習により生徒への目的意識を持たせる工夫をしていく。 ○進路指導では総合型選抜・公募制推薦への組織的な対応が今後の課題となるため、職員の共通理解を図って、早めに対策を立て、生徒一人ひとりの第一希望の実現のサポートをしていく。 ○3年間を見通した一貫性のある進路指導の共通理解を図るとともに、好事例を共有することで、進路志望に沿った指導の実現を果たす。
		総合的な探究の時間「都留高探究プロジェクト」を中心に、地域社会における自己の役割を考えさせることで、自分らしい生き方を探すキャリア教育を推進する。	学校評価アンケートの分析と「都留高探究プロジェクト」の成果の検証			
		「丁寧な進学指導体制」の下、全国に通用する学力を養成し、適切な情報提供とアドバイスを行うことで、生徒一人ひとりの第一希望の進路実現を図る。	学校評価アンケートの分析、学力の推移および進路実績の検証			

学校関係者評価

実施日　（令和5年2月17日）

評価	意見・要望等
3	○生徒募集について、地域の生徒が減少しており、ここ数年定員割れの状態である。そこで、大月市の小中学校の放課後の学習会で都留高生に講師を務めてもらうのはどうでしょうか。 ○運動部の部員不足を耳にするので、具体的な対策を講じて部数・部員数減少に歯止めをかけ、活発な部活動を維持してほしい。 ○学校改善アンケートは、毎年かなり細かな事項について教職員、生徒、保護者の三者に対して実施し、結果についてもきちんと分析したうえで、改善点について明確にしているので素晴らしいと思う。 ○学校と地域の結びつきの大切さが強調されている昨今、コロナ禍で直接的な交流に困難差がある中で、オンラインを活用して何とか継続していこうと努力することは大切である。 ○進学校として、生徒のニーズに合う学習指導をしてほしいが、生徒が主体的に学びに向かうように仕掛けることで、「自立した学習者」を育成してほしい。
4	○大月市、都留市、上野原市の各地域と高校の連携を実現させるために、地域の代表的な祭りやフェスティバルの実行委員会に入って、活動させてみてはどうか。 ○コロナ禍により、ため込んだり、自分で何でも処理しようとしたりして生徒が自ら相談することをためらっている。自分で処理できなくなってからどうしたらいいか、と聞いてくる。先生方から子供たちのSOSのサインを見逃さずに対応してほしい。
4	○都留高探究プロジェクト（つる探）は素晴らしい取組。探究活動を深めるためにも、インターネットによる情報だけでなく参考文献をしっかり読むようにしてほしい。また、地域に関わるテーマと扱う場合は、地域の専門家を訪ねたり、学校へお呼びして講演をしてもらうことも検討して見てほしい。 ○『つる探』の活動を学習指導要領にも明記されている「これからの自分の生き方に直接的につながっていくテーマ」により近づけていくこと、つまり「自分はこれからの人生をどう生きていきたいのか」という根本的な問いを深めていく中で、各自のテーマ設定を進めていくことが大切であると考える。 ○丁寧な進路指導を行っているという回答が多かったので問題ないと思うが、色々な大人（企業、職人、自営業など多様な職種の人々）と出会わせていくことが、これからの多様な生き方が模索される時代には必要ではないかと考える。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。